

# コラム

シニアアンサンブルのための楽器知識

## 「21」 SEエッセイ

今回はSEのための楽器知識はお休みにして長い間SEを続けてきて、皆様に提案したかったことを羅列します。独断と偏見があるかも知れませんが、予めお許し下さい。(全シ連 岡村)

### 指揮棒を見るということ

時々、指揮者の代役を務めて、棒を振ってみて痛感するのは、特定の人以外は指揮棒を見てくれないということです。

TVで放映されるプロのオーケストラの場合、管楽器のソリスト等は殆ど暗譜で指揮者を注視していませんが、全体的には顔は上げないが指揮者の下半身の動きを見ているようです。

これまで見た演奏の中で最もよく注視していたのは子供音楽コンクールの器楽合奏や吹奏楽コンクールの優秀校の生徒たちです。彼等は楽譜を全て暗譜しているから楽譜を見ずに指揮棒だけ見ているので、正に一糸乱れずの演奏になるわけです。私はアマチュアオーケストラに8年間在籍しましたが、楽曲の演奏はアマオケの方が難しいが、合わせるのSEの方がむしろ難しいと感じています。オケの場合は弦楽器は2人で1つの楽譜を見て演奏し、しかも縦列に並ぶので、前後左右を見ながら弾けばよいので、あまり指揮者は見なくてもよいのです。(但しパトリリーダーは責任重大ですが、・・・)

その点SEは各人が1枚の楽譜で横列に並ぶので、指揮棒の注視が不可欠になります。

この問題をクリアする方法は各曲を何回も弾いて体に覚えこませ楽譜を暗譜すれば指揮棒だけ注視することができます。確認のために楽譜を時々眺める程度まで練習すればそのコツがつかめるものとお奨めします。

### 厳しい先生と、よく忠告する団友について

私は61歳で足立シニアアンサンブルに入団した時にY先生という厳しい先生にかなり叱られました。例えば「青い山脈」などを指揮棒に関係なく、自分の記憶のまま伴奏から思い切って弾くので周囲と音が合わずかなり演奏を中断して叱られました。あまり叱られるので、「この先生は僕が憎くて叱っているのだ」と心の中で恨んだこともありましたが、今思うとそれによって私は鍛えられました。世の中、生徒を個人的に憎くて叱っている先生は殆どいないのです。しかしそれに耐えられない団員もいるわけで、指導する先生はその辺を見極めたサジ加減が難しいと思います。それから団友の横からの忠告について問題になることがあります。結果的には周囲から無関心に素通りされるよりも、指摘された方が身のためになるのですが、あまり厳しく指摘されるとパワハラになる恐れがあるので、その点、忠告する方もある程度ケアが必要だと思います。

### バイオリンの4弦にアチャスターは必要か

バイオリンの第1弦(E線)にはアチャスター(微調整用のネジ)がついていますが鈴木バイオリンの子供用の分数バイオリンは全ての弦についています。SEの団員も4弦ともつけている人とはつけていない人がいます。

バイオリンの4弦の調弦は先ずA#442Hzを合わせてDGを完全五度で合わせ、最後にA線とE線を合わせるのが従来からの方法でしたが、この方法は私たちシニアから習い始めた者にはかなり難しいことで、最近では4弦にアチャスターをつけてチューナーで合わせる方がふえています。アチャスターを4つつけると音色に影響するという人もいますが、私たちアマチュアは殆ど影響ないと思います。チェロには4弦にアチャスターがついています。この問題はバイオリンの先生たちがつけてこなかったからつけただけで、4弦全てにつけて問題はないと思います。

### 何故SEの団員には子供時代にコンクールで金賞をとった人がいないのか?

私は26年間、シニアアンサンブルで沢山の方に会いましたが、標榜のように子供の頃に器楽や吹奏楽コンクールで金賞をとった人に出遭ったことはありません。(但し、プロの指導者や演奏家は別ですが・・・)この問題を考えるとSEの団員たちの多くが子供時代に一寸やっただが、最近時間が出来たので・・・とか若い頃からいつかやりたいと思っていたとか云う方が多いようです。若い頃にコンクールで一生懸命練習を重ねると音楽の楽しさよりもうまさを追及して、再び楽しむ魅力を失うのではないかと思います。むしろ適度に音楽を生涯の友として楽しむのが最善だと思っています。私が55歳の時のバイオリンの師匠は「音楽はやさしい曲を皆で演奏するのが一番」と言っていました。音楽を他流試合のためよりも人生の友として気軽につき合う方が賢明だと思えます。プロは如何にして他人よりうまく弾いて収入を稼ぐか、音楽は生活の手段ですが、私達は気楽です。

### シニアアンサンブルの歌伴について

私達のSEは中高年の器楽合奏団で、形式としては鍵盤楽器やドラムも加わったグラントオーケストラスタイルが殆どです。

ポール・モリアなどプロのグラントオケはボーカルは入らず器楽合奏のみですが、私達は慰問演奏などで1曲か2曲、ボーカルを入れています。これは入れるとお客様が大変喜ぶからです。本質は器楽合奏ですが、一寸形式を変えようとボーカルも大変引き立ちます。話は代わりませんが、クラシック音楽にはオーケストラ(管弦楽)とオペラが両輪になっており、オペラはボーカルが主役でオケは伴奏でワキ役です。しかし海外や国内のプロのオペラは入場料が高価で、私たちには気軽に行けません。

アマチュアオーケストラでもオペラを2,000円程度で見せる場合がありますので是非、行くようおすすめします。生のオペラの迫力は格別です。